

# 共生

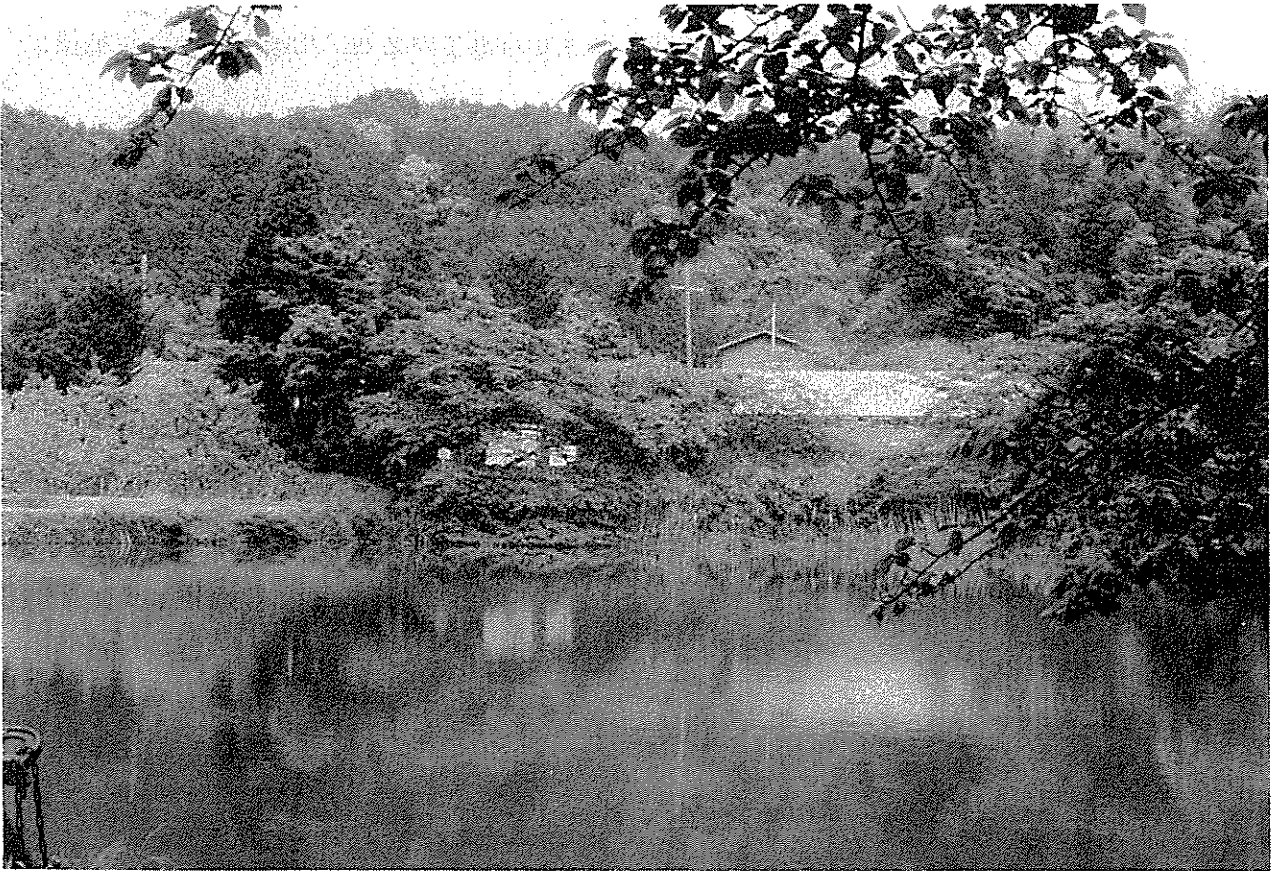
奈良県生協連

1998年4月

NO.28

山の辺の道を歩く

PART-13



うちやませいぎゅうじあと  
＜内山永久寺跡＞

道が石上神宮の境内にさしかかる頃、眼前が急に開けて大きな池が現れる。ここに明治初年まで内山永久寺があった。最盛時には70余棟の堂塔が建ち並び多くの僧兵を擁した時もあった。後醍醐天皇が笠置山で敗れた時、またその後建武の中興が失敗し吉野に逃れる時もここに立ち寄ったと伝えられている。しかし、明治初年の廃仏毀釈の嵐が吹き荒ぶなかで一山の僧侶全員が一夜にして石上神宮の神官に鞍替えしてしまい、巨大な寺院は跡形もなく破壊され、今は本堂の前の池だけが井田時の名残を止めている。一時は巨大な力を誇っても大衆的基盤をもたぬものの脆弱さを示す歴史の厳しい教訓を秘めて池の面を風がふきぬける。古代の遺跡の眠るこの道筋も、近世から近代へと急流のような流れのなかはその影響を免れる事までできなかった。そして今日、環境破壊の問題も持ち上がっている。貴重な遺産をどう後世に伝えるか、我々に課された使命は大きい。

(このシリーズはこれで終わらせて頂きます)

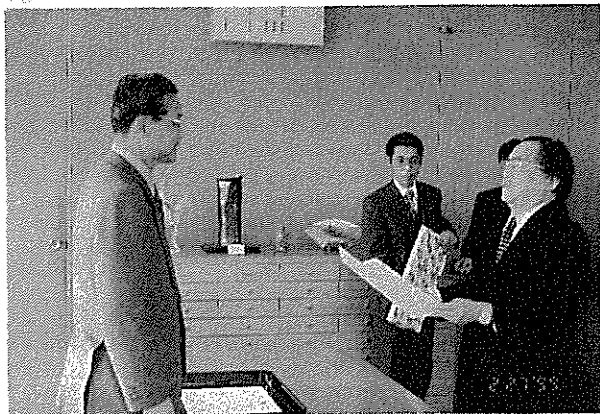
# 知事表彰

## 生協功労者に対する県の表彰制度新設

奈良県は、生協法施行 50 周年を記念して、生協の発展に貢献した役職員の知事表彰制度を設け、2 月 27 日県庁において、繁田實造県連会長と稲川和男ならコープ相談役理事へ柿本善也知事より表彰状が授与されました。

この制度は、奈良県知事表彰に基づき、県内の生活協同組合の発展に功績のあった役職員に対する表彰として、県連の要望により実現しました。

繁田会長は、1974 年 7 月設立発起人代表として、市民生活協同組合ならコープ（設立当時は奈良市民生活協同組合）を設立し、その後も理事長として、ならコープの発展に多大に寄与したこと、また、1990 年から、奈良県生活協同組合連合会会長として県内の生活協同組合の発展に尽力してきたこと、また、稲川理事も繁田会長同様、ならコープの設立発起人として設立に参加し、以後専務理事としてならコープの基盤をつくり、1982 年以降も理事、相談役理事としてその発展に大きく寄与したことが功績として評価されました。



表彰をうける繁田県連会長



稲川ならコープ相談役理事

### < も く じ >

知事表彰	2	環境	8	広がる協同・くらしの輪	12
第 8 回生協大会	4	福祉	9	'98 年度重点課題	13
第五福竜丸エンジン を東京夢の島へ	6	平和	10	つながる連帯・友好の輪	14
		国際交流	11	県連日誌・おしらせ	16



## 知事表彰を受けて

### 繁田 實造

(ならコープ前理事長、現生協連会長)

このたび、生協法施行 50 周年を迎えるにあたり、生協の健全な発展に尽力し、健康で文化的な生活と、住みよい地域づくりに貢献したとして、柿本善也奈良県知事の表彰を受けましたが、わたし個人としては、これは、奈良県における生協活動に対する知事表彰であるとうけとめています。

その理由は、まず第一に、ならコープは組合員数、供給高、出資金額がバランスよく伸長している模範的な生協の一つであるばかりでなく、その設立当初から地場産業との共存共栄を重要なポイントの一つとしてきましたが、例えば鶏卵に見られますように、長年の努力が実を結んできたことが認められたものとうけとめています。

また第二に、奈良県生協連は、その設立以来まだ日は浅いのですが、奈良県立商科大学や、国立奈良工業高等専門学校での生協の設立は、大学生協の歴史において特筆されるべき壮挙をなしとげたものと自負しています。奈良県連でのこのような先駆的な活動が認められたものとうけとめています。したがって、このたびの知事表彰は、生協の発展・充実を通じて住みよい地域づくりに努力し続けてきた生協の仲間を代表して表彰されたものとうけとめております。

この知事表彰を契機に、奈良県における生協活動のさらなる発展・充実のために、より一層努力する覚悟を強めております。

### 稲川 和夫

(ならコープ初代専務理事、現相談役理事)

奈良県柿本知事より「協同組合の発展に貢献された」との事由で、今回奈良県で初めて表彰を受けました。

この事は、ならコープの創立・発展に参画された総ての役員、職員そして組合員に贈られたものであり、特定の個人やグループに贈られたものではありません。ご承知のようになります。ならコープは 24 年前、「石油危機」と言われた時代、生活必需商品がメーカー、スーパー、小売店等の売り惜しみに、一夜にして店頭から姿を消し、他方では数倍の価格をつり上げて、その商品が売買され、消費者の生活は危機に晒された時、県下の主婦、お母さん達数千人によって創立された、「組合員中心」の協同組合です。

その後、共同購入と店舗事業を中心にして、多くの専門家の御指導ご支援を頂き、現在、奈良県民の生活に深く溶け込み、生活の上でなくてはならない組織に発展してきました。

今日、国民の生活、福祉、環境、教育、健康など総ての分野で根源から破壊が進んでいる時、ならコープの果たす役割は益々重要視され、その社会的な活動が期待されています。今後とも皆さんと共に、協同組合の更なる発展のため、頑張りたいと思います。



柿本知事との談話

# 第8回奈良県生協大会

## 地球環境時代の暮らし方を考える

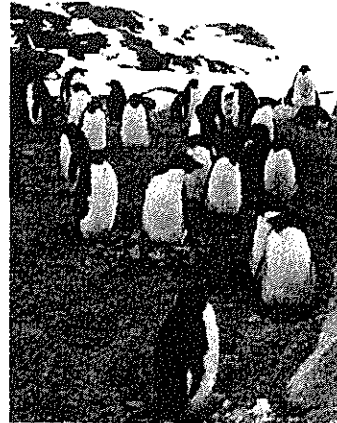
2月14日共済会館やまとにおいて、第8回奈良県生協大会が開催されました。県や各友好団体のご来賓6名、会員生協理事長4名の参加の他、県連に加入する7生協より学生など約60名の参加がありました。

奈良女子大学高田将志助教授（奈良女子大生協理事長）に「南極の自然と環境問題」というテーマでご講演をいただき、科学的知見に基づく説明と南極の自然の雄大さに引き込まれました。講演の中で、南極は大陸の上に氷河ができているのに対し、北極は氷河が海に浮かんでできていること、温暖化による海面の上昇は、ツンドラ地帯や陸の氷河が溶けての海面の上昇の可能性は高いとしても、南極の氷が溶けて上昇すると言うのは正しくないこと、氷が増えるかどうかは降雪量による影響の方が大きいので、逆に南極の氷河が広がるという説もあると言った話が印象に残りました。

学術調査におけるスライドでは、南極大陸のペンギンの愛らしさや、工夫して作った流し素麺の写真等では、皆の笑いを誘いました。

午後からは、県連会長賞が福祉サークル「ミニデイサービスふれあい」と環境サークル「ゴミゼロの会」の代表に授与され、日頃の活動の苦労話などのインタビューがありました。

その後交流会を持ち、ならコープからの「地球が病気になるって？」というテーマでの寸劇の後、各大学生協から活動報告が行われ、和やかに交流の輪を広げました。



瀧川専務のあいさつ



講演される高田先生

## ご参加頂いたご来賓の方々

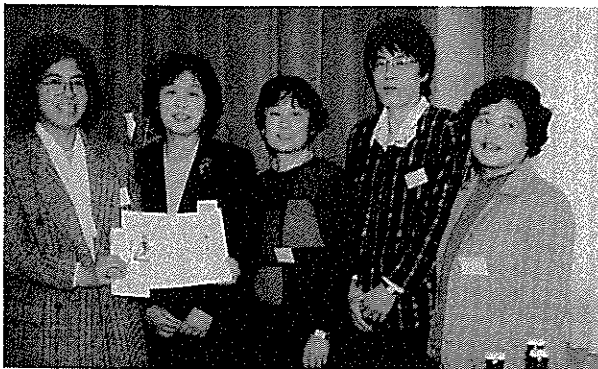
奈良県県民生活課課長 北岡四郎  
日生協・関西地連近畿担当 北村 洋  
奈良県県民生活課主査 青山明彦  
奈良YMCA所長 藤井辰男  
奈良県原爆被害者の会（わかくさの会）  
会長 市原大資  
第二生活科学センター消費生活教室OB会  
運営委員長 中川英子  
(敬称略)



ご来賓の方々

## 奈良県生協連会長賞

福祉、文化推進奈良県生協連合会会長賞として、「ミニデイサービスふれあい」、リサイクル推進奈良県生協連合会会長賞として、「ゴミゼロの会」のそれぞれが表彰され、代表者が繁田県連会長の代理として、奈良高専生協の桐川理事から賞状と金一封が授与されました。尚、表彰された各サークルの投稿文は8～9ページに掲載しています。



ミニデイサービスふれあいの皆さん



ゴミゼロの会の皆さん



ならコープ理事の皆さんの寸劇



交流会での皆さん

# 第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ

## 和歌山から東京までの途中、エンジンをコープいまごで展示

第五福竜丸は木造の遠洋マグロ漁船で、1954年3月1日アメリカの水爆実験の近くに居合わせ被爆し、乗組員23人が「死の灰」を浴び、無線長の久保山愛吉さんが1年足らずで死亡しました。その後、大学の練習船に転用されましたが、67年に廃船となりました。また、エンジンは貨物船に転用されましたが和歌山沖で沈没し、海底に沈んだままになっていました。

現在は、東京夢の島に保存されている第五福竜丸船体と、96年12月、和歌山県海南市の杉末廣さんらの呼びかけで海底から引き揚げられたエンジンを再会させたいという、和歌山県民運動や全国各地での幅広い市民団体や個人が手を携えた運動が沸き上がりました。その熱意により東京都はエンジンを受け入れる意思表示を行いました。2月20日、故郷和歌山を出発したエンジンは船体との歴史的な“再会”に向けて東京に向かっていきます。

途中2月22日には、県連主催で、コープいまごの駐車場でこのエンジンの展示を行いました。赤く錆びついたエンジン前に、和歌山からの杉さんら「福竜丸エンジンを見届ける会」の20名、福竜丸について学習されている三重県大台中学校や奈良県立ろう学校の生徒、買い物にいられた親子づれなど、約120名の参加者があり、海底から引揚げられた“物言わぬ被爆の生き証人”のエンジンを感慨深く見学しました。

また店頭ではCDによる吉永小百合の被爆者の詩の朗読が流され、原爆パネル、福竜丸パネルの展示やクイズラリーも関心を集め、買い物途中の人達も原爆の恐ろしさに改めて思いを馳せていました。

焼津市の研究家飯塚俊弘氏は講演で、「地元ではやっかい船といわれ、生存している乗組員は今も体験を語れない。物を言わぬエンジンが語りかけている核廃絶、平和へのメッセージを聞いてほしい」と訴えました。また久保山愛吉さんの未亡人久保山すずさんが、その後のさまざまな苦難と苦労の中で原水爆禁止運動を世界に広げその統一を亡くなるまで祈り続けたという半生についての感動的なお話を聞くことが出来ました。

なお、奈良での取組みの共催は

奈良県原爆被害者の会（わかくさの会）、市民生活協同組合ならコープ、ならコープ平和の会、ならコープ労働組合

協力は

奈良県原水協、奈良県原水禁、奈良YMCA

後援は

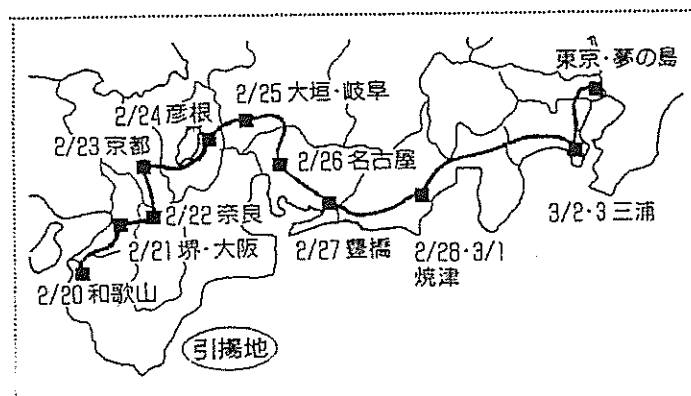
奈良県地域婦人団体連絡協議会、奈良県青年団協議会でした。



第五福竜丸エンジン

## 取組み府県の主催団体では次のような活動が行われました。

- 2/20 (金) 「第五福竜丸エンジンを東京夢の島へ」和歌山県民運動主催
  - ・わかやま市民生協コープ紀三井寺前での式典後、船体との再会の旅へ
- 2/21 (土) 大阪いずみ市民生協主催
  - ・堺市役所来庁者用駐車場と大阪城公園内青屋門付近での展示
- 2/23 (月) 「第五福竜丸エンジンを東京夢の島へ」京都の会主催
  - ・新都ホテル駐車場での展示と大石又七氏とのつどい
- 2/24 (火) 滋賀県生活協同組合連合会主催
  - ・コープしが・シルヴィーコープ駐車場での展示と大石又七氏とのつどい
- 2/25 (水) 全岐阜県生活協同組合連合会主催
  - ・岐阜地区市民生協三城地区センターでの展示と記念撮影会の後、コープながら店でエンジン出迎えの式典
- 2/26 (木) 「第五福竜丸エンジンを東京夢の島へ」運動と連帯する名古屋のつどい主催
  - ・市役所前から会場まで市内パレード
- 2/27 (金) 第五福竜丸エンジン展示・三河地域実行委員会主催
  - ・豊橋公園での展示と集会
- 2/28 (土) 1998年3.1ビキニデー静岡県実行委員会主催
  - ・清見田公園での展示と焼津市文化センターで集会



飯塚氏の講演



エンジンの前での皆さん

# 環境

ゴミゼロの会 田村 弘子



## ゴミゼロをめざして

今から7年前に、磯城郡三宅町東屏風に住む組合員十数名で発足しました。牛乳パック回収が一段落つきまして、アルミ缶回収に乗り出し、不燃物回収日（月1回）にアルミ缶抜き取り作戦を行いました。5ヶ所の公園がステーションとなっています。夜8時から9時まで、雨の日は中止。無理をせず楽しく行動。月夜の明るさ、星の輝き、今でもはっきりと覚えています。その後、自治会の環境整備委員会に入り、自治会全員で1年間アルミ缶抜き取り作戦を行い、学びながらゴミについて理解を得る努力をしました。

そして東屏風独自のゴミ分別練習に発展して行きました。①アルミ缶②スチール缶③蛍光灯・電池④ビン・ガラス類⑤その他、に分けましたが、収集は一緒にガチャンポンで運んで行きます。しかし行政の変化があり、昨年12月からアルミ缶、スチール缶を1個1円で回収機で集めることになりました。その

他の不燃物は前と同じですが私達は不燃物がゼロになるまで継続する約束をしています。現在行政の人々とも、情報交換や話し合いをしたりして良好な関係になっています。

先ほどの公園5ヶ所は、子供の数も減り草がぼうぼうと茂っています。昨年の秋から3ヶ所を花壇にしようとする自主的に26人の輪が出来て、土作り花植え等、自分達の力で東屏風地域を美しい環境にしようと燃えています。「ゴミゼロの会」の活動はどんどん広がっております。三宅町のゴミ処理は天理市に委託しています。山辺広域に住む組合員さんで作っているコープリサイクル山辺の人々と共に、ゴミの分別収集を1日も早く実現しようと日々楽しく活動しております。この活動は地域の人々を結び、お互いに顔を知り声をかけて助け合って生きて行くのに大きな役割があるのです。

## COP3で何が決まったか

12月京都で開かれた気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）成功のために、生協連として多彩な活動に参加しました。NGOの大きな盛り上がりの中で、不十分ながらも京都議定書が採択されるに至りました。この京都会議の成果とこれからの課題について講演会が開かれ、井上有一助教授は、歴史的意義として、はじめて法的拘束力を持った温室効果ガス削減計画が出されたこと、化石燃

料依存からの脱却の第1歩となったこと、また、問題点として、削減数値目標が不十分なこと、抜け道の活用による現状維持の可能性のあることなど指摘されました。

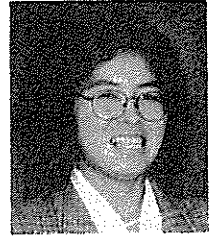


奈良産業大学井上助教授の講演



# 福祉

ミニデイサービスふれあい  
小栗 ゆかり



## お年寄りとの交流の輪

ミニデイサービス“ふれあい”はホームヘルパー養成講座二級を終了した有志が集まり、ならコープのみみなし店、おしくま店の集会室でミニデイサービスをしています。

昨年6月～8月に1日企画（プレ企画）を試験的に体験した後、9月より本格的に開始しました。この会は暮らしの助け合い活動を通して自主的な相互援助活動を地域の中で育てていくことを目的として活動することになっています。

具体的な活動として、

- ① 高齢者を対象として1日有意義に楽しむ取り組みをする。
- ② 食事やレクリエーションを通して生きがいを共に考える。
- ③ 活動を通して高齢社会について考える。

以上3点を基本としています。

各々の集会室で1ヶ月に2回の活動を行い、利用料として1,300円いただき、昼食、おやつ、手作り品の材料費等に当てます。他に、年会費として2,000円いただき、ボランティア活動保険、送迎サービス保障保険の加入、通信費等に使います。何も無いところから始めた活動ですので、必需品のほとんどは会員の持ち寄り品でまかない、足りない物は会費を使っています。

9月に始めて5ヶ月が過ぎましたが、目標通りに利用者が集まらないのが現在の大きな課題になっています。「一人暮らしのお年寄りや、昼間一人で淋しく過ごしているお年寄りに利用してもらえたらいいね」と、当初会

員で話し合いましたが、まだまだ活動の回数が少ないため、地域に知られていないのが実情です。利用者の登録は12名いますが、平均して1日の利用者は、みみなしで4～5人、おしくまで2～3人です。しかし利用者の方からは、スタッフの作った昼食に「おいしい」と喜んでいただき、おしゃべりや遊び、手作り品の体験等を通して、大変楽しんでいただいています。「家にいると笑うこともないが、ここでは皆と交流できて楽しい」、「この年令で歌なんか歌えないと思っていたのに声が出たわ」というような声も度々聞けたり、また、スタッフも利用者との交流の中で、人生の先輩方から大事なことを学ばせていただくことも多く、やりがいを感じています。

会のメンバーは35人。又、会に賛助して下さる方27人で運営していますが、活動に参加する交通費や昼食代も自己負担しています。せめて交通費の実費は、利用者から出していただけるようになればと将来に託しています。

まだまだ軌道に乗れていない活動ではありますが、スタッフとしての会員の夢は大きく、サービスの中身を高め、利用者の方に喜んでいただけるようにと、互いに研鑽を積んでいるところです。



## ユニセフ通をして、国境をこえたつながりを 長倉洋海写真展 “Dear Friend” —紛争地の子どもたち— を終えて

とりあえず我が身に今、戦争の脅威はないだろうと誰もが思っている日本で、「平和ってなんだろう」と考える機会はありません。なまなましい国際情勢をなにとつ知らない若者たちが、ファッションとして迷彩服やワークブーツを身につけ、凶器の威力を知らずに刃物を持ち歩く……。

そんな世相の中にあって、ジャーナリストの道を選んだ長倉さんは、真実を求めて様々な国の紛争地で、いやというほどの死と凄まじい生を目の当たりにしました。「どうしてひどい戦争を終わらせないんだ」と問い続けるうちに、「戦争はたくさん人が死ぬんだよ。好きなはずはないじゃないか」という少年のことばによって、最も苦しんでいるにも関わらず、大国の介入や資源などの利害で国家に翻弄されている人々の現実を知りました。激しい戦闘のうわべでは戦争の真実は見えないと、紛争地の人々と共に暮らして、その命の輝きや力強さを伝えていらっしやいました。

「よその国の内紛」に無関心だった私たちも写真の子どもたちの瞳をみつめるうちに「うちらの子と変わらない」ことに気がつきました（アンケートに若いお母さんの感動の声多数あり）。そして「世界の子どもたちが、平等に平和に暮らせる日が早く来ますように、自分にできるこ

とは何かを問いつづけたい」、「自分が悩んでいたことが小さく思えた」、「ショックとともに希望も持てた」などの声が本当にたくさん寄せられました。

私たちはいろんな視点から、みなさんと「平和って何？」を共に考え、国境はあるとしても、共に地球上に生きている者どうしとして、たすけあえるつながりを模索していきたいと願っています。「こどものしあわせ」を最優先に、紛争で傷ついた社会を支援するユニセフは私たちにとって、みずからの社会を省みる機会を与えてくれる強力なパートナーでも思っています。

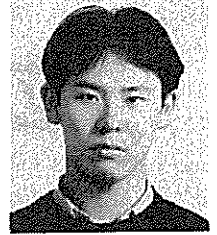


長倉洋海氏の講演



長倉洋海写真展

2月6日～8日、長倉洋海写真展「“Dear Friend” 紛争地の子どもたち」が、奈良県女性センターで開催されました。8日には長倉氏の講演も行われ、3日間で延べ371名の参加がありました。



## アジア・スタディツアーに参加して

僕は、海外旅行にいったことがなく機会があれば一度行って見たかったし海外の文化にも触れて見たく、また、知り合いも作りたくて7月21日～8月2日の日程でアジア・スタディツアーに参加した。

### フィリピンでは…

・マニラの街の様子

マニラのコンビニでは、ガードマンがいてみんな銃を持っているのには驚いた。市内では交通渋滞がひどい上に、交通マナーも僕らから見るととても悪かった。フィリピンの家庭では日本のメーカーの電化製品が置いてあった。街は人々の憩いの場のように思えた。

・フィリピンの学生との交流セミナー

フィリピンとの学生たちが、Well comeパーティーを開いてくれたが、一生懸命話し掛けてくれるのにその内容が殆どわからず、英語をもうすこしできたらなと思うことが多々あった。初めてのプレゼンテーションでは、少し不満も残るけどとりあえず終わった。フィリピンの学生には分かってもらえたかどうかわからないけど…。

### タイでは…

・泰面鉄道

映画「戦場に架ける橋」の舞台になったクワイ川鉄橋、資料館等を見学した。そこは観光地になっている。タイに来たら、是非立ち寄ってもらいたい。戦争当時タイでは何が起こっていたのかがよくわかるからである。

・チュラロンコン大学生協

王立であるチュラロンコン大学の生協は、日本と違い全て学生で成り立っている。店舗の前には一言ボックスがおいてあり日本のを参考にしたらしい。

・タマサート大学生協

生協では議長以外は学生で成り立っている。店舗はコンビニと変わらない様子であった、もうすぐ24時間営業にするらしい。

・タイの学生

今は、飛び級進学があり高校は1年で卒業する人がいる。それに良く勉強している。日本と比較してみると、英語は日本より学習年数が少ないのにコミュニケーションをとるだけの力を持っている。日本の英語の教育とは何なのだろうかと考えさせられる。タイの学生に負けたくない。

・大学生協は

フィリピンでは、豪快に商品が積んであるのには驚かされる。生協の悩みは大体日本と同じで、生協委員であるのに活動をしないなどといった。タイでは、経営それ自体学生が行っていた。日本よりも責任が重い。

### 感想

このアジスタに参加して、これからの大学生活を送るうえで目標ができた。まず英語を身につけ、海外の人々（学生たち）と、コミュニケーションを取り今の僕たちの考えなどを伝え、また相手の考えも理解し合えるようになりたい。学生たちが、とても暖かみのある態度で僕たちを歓迎してくれて、言葉は違うけれど同じ仲間なんだと思った。また、学ぶべきことがたくさんあり、いい思い出も作ることができて良かった。

最後に、このツアーでのプレゼンテーションは奈良女子大の専務さんや商科大の学生委員の方たちにも手伝ってもらい、また、アジスタのメンバーにも助けてもらい思い出に残るツアーになった。ありがとうございました。

# 広がる協同・くらしの輪

## 全国ボランティア活動交流集会

1月15日～17日こうべにおいて、「第29回全国ボランティア研究集会」、「第3回市民とNGOの防災国際フォーラム」そして生協が協力、連携して全国ボランティア活動交流集会が開催されました。全国ボランティア活動の大きな交流の場となりました。



## 「食料・農業・農村問題を考えるシンポジウム」

2月3日大阪国際交流センターにおいて、日生協主催「食料・農業・農村問題を考えるシンポジウム」が開催されました。「基本問題調査会の第1次答申」を農水省大臣官房参事官伊藤健一氏、「日本生協連小委員会の中間報告」を藤岡常務が行い、NHK解説委員中村靖彦氏をコーディネーターに、農水省、JA中央会、生協の代表が参加してシンポジウムが開催されました。



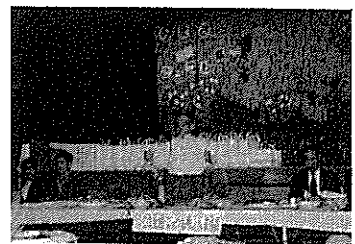
## フォーラム「都市と農村の共生をめざして」

2月24日奈良県文化会館において、県主催フォーラム「都市と農村の共生をめざして」が開催されました。京都府立大下村孝教授の講演「自然とのふれあいを楽しもう」の後、民宿経営者、ハーブ生産者、棚田オーナー、消費者によるパネルディスカッションが行われました。



## 第2回うまさ発掘ごっつお展

3月1日奈良市中央公民館において、県観光産業推進協議会主催、奈良食文化研究会協力で、奈良の食文化の創造を目指した「第2回うまさ発掘ごっつお展」が開催されました。奈良の食材を使った33点が出品され、ごっつお大将等が選ばれました。又、中国料理研究家程一彦氏の「食は親と子の絆」と題して講演が行われました。



## 第8回奈良県JAセミナー

3月12日農協会館において、食料・農業・農村問題を考えるというテーマで「第8回奈良県JAセミナー」が開催されました。高田会長のあいさつの後、NHK解説委員の伊藤和明氏が「地球環境の危機」、評論家の五代利矢子氏が「人生80年代のライフプラン」と題して講演が行われました。



# '98 年度重点課題

生協間及び各種団体との協調した取組みを強めます。

□ 生協間の交流と連帯を強めます。

- ① 生協法制定 50 周年を祝う生協大会の成功をめざします。
- ② 大学生協学生委員の交流を支援します。
- ③ ならコープの環境・平和・福祉の活動と大学内の組織との連携をめざします。
- ④ 日生協・他府県連との連携を強めます。

□ J A ・森林組合等との協同組合間の協同を強めます。

- ① 協同組合デーのつどいを成功させます。
- ② 事業・運動面での協調した取組みをめざします。
- ③ 新たな農業基本法制定に向けて学習を深めます。

□ 友好団体とのつながりを拡げます。

- ① Y M C A ・地婦連・青年団とのつながりを引き続き強めます。
- ② 共同作業所等、福祉団体とのつながりを強めます。
- ③ 市民の環境活動やアース基金等、環境団体とのつながりを強めます。
- ④ わかくさの会（奈良県原爆被害者の会）や原水爆禁止をめざす団体、その他平和問題と取組む団体とのつながりを強めます。
- ⑤ 国際協力等、国際親善団体とのつながりをめざし、留学生とのつながりを強めます。
- ⑥ 留学生とのつながりをめざします。
- ⑦ 奈良の食文化研究会等を通じ、食に関する活動の広がりをめざします。
- ⑧ 清掃登山においては労山等、運動で協力できる団体とのつながりを拡げます。

□ 地域住民との連携を拡げます。

- ① ボランティア活動の輪を拡げるよう働きかけます。

□ 関西消費者団体連絡懇談会との連携を強めます。

- ① 諸物価、公共料金や消費税等での協調した取組みを強めます。

消費者の声を行政に反映させる活動を強めます。

□ 食の安全行政を強化する取組みを強めます。

- ① ならコープをはじめ会員との連携した取組みを強めます。
- ② 県の食の安全行政についての調査を行います。
- ③ 議会との関係強化に努めます。

□ 生協法制定 50 周年の取組みを成功させます。

- ① 生協大会とセットの記念企画の開催をめざします。
- ② 県との共催を追求します。

奈良県下の消費者団体の組織化をめざします。

□ 他府県消団連の調査活動を行います。

□ 組織後は事務局の強化に努めます。

政党及び各会派との関係を強めます。

□ 定期懇談会が持てるような取組みを研究します。

環境・平和・福祉・食の安全等の取組みを共同して進めます。

□ ならコープをはじめとする会員との連携を強めます。

□ 大学生協での取組みへの支援を強めます。

広報活動の充実に努めます。

□ 生協連ニュースの内容の充実に努めます。

□ マスコミへの働きかけを強めます。

□ 日生協と県連の情報のネットワーク化や県連ホームページ作成の方向をめざします。

# つながる連帯・友好の輪

## 奈良女子大学生協

今年は「I L\*VE NARAJO」

奈良女は、盛りだくさんの「新歓」です。新入生歓迎の企画といってもいろいろ。まずは、入学試験の時に「落ちついて試験受けてね」のチョコレートつきビラ配り。合格者への合格おめでとうメールの発送。もちろん、「I L\*VE NARAJO」と「奈良おさんぽマップ」の冊子を頑張ってつくりました。一般入試前には、すでに推薦入試の合格者の手許にも届いています。

そして、入学式前日は、「エントランスイブ」で一足早く学校に慣れ、友達も作ろうという企画。ガイダンスが始れば、「大学生活相談」で先輩が受講登録の仕方などを教えてくれます。奈良女に来てよかったと言ってもらえれば最高です。（小林利幸専務理事）

## 奈良県立商科大学生協

できたよ！大和路通信

奈良県立商科大学生協は、設立されて丸3年が経過をしました。設立後すぐに入学した一年生も今年で四年生。順調にいけばめでたく卒業という月日がたちました。生協の学生委員も世代交代が出来るかどうかが大きく問われた一年でした。しかし、引継ぎ合宿を1月の5日から7日まで行い、先輩達の思いや、設立当時の裏話を聞き、そして専務理事の津田先生から期待を述べられ、心配することもなく新しい学生委員会がスタートしました。そして、次の一年生を歓迎する企画の打ち合わせを行ないました。時期は、試験と重なりましたが、結局締め切りを遅らせながらも、

新入生歓迎！「大和路通信」を完成させました。新入生の反応が楽しみです。

（小林利幸理事）

## 奈良高専生協

奈良高専生協では4月11日(土)に、生協学生委員会と奈良高専学生会、放送部との共催で『新入生歓迎会』を行ないます。

昨年の歓迎会では、学校が休みの土曜日の午後からにも関わらず、新入生200人のうち約80人が参加してくれました。

新高専生のため『新しい仲間づくり・楽しい学校生活のお手伝い』をしようと、スタッフ一同はりきっています。

当日は、みんなで食事をし、その後グループに分かれてのゲームなどで交流を深めようと、いろいろ楽しい企画を考えています。この中から多くの新入生が学生委員に入ってくればなあ、と思っています。（林店長）

## 労済生協

全労済では、組合員の皆様に、より豊かで快適な生活を送っていただく事を願って、共済事業に加えて生活創造事業の活動を展開しています。

その一環として開催しております「滞在型学習旅行」の97年度計画が整いました。

例えば、国内編として「維新と王政復古の時代を訪ねて」をテーマに京都の史跡をたどり、坂本竜馬や岩倉具視など時代を動かした人々の個性あふれる魅力と、古都の春にもゆっくりふれられる一泊二日の旅とか多数企画

しております。詳しくは、全労済近畿地方本部生活創造事業課までお問い合わせください。

全労済近畿地方本部生活創造事業課

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町 11-14

TEL.(06) 338-6031

FAX(06) 338-1666

## 樟蔭女子短期大学生協

樟蔭女子短大生協の1年が終わりました

樟蔭女子短大の生協は一昨年に設立されましたが、その後の半年間は購買のみ、97年の春から食堂も始まって、他の大学生協と同じような中身で事業を開始して1年が終わった、表題はそういう意味です。初めてのことで、知らないことだらけの中で、組合員に迷惑はかける。無我夢中の1年を終わって、経営的には惨敗。供給予算を14%も割り込んでしまいました。ただ、前年実績のないところでの数字ですので、これがまずの実力、出発点だと思っています。

この文章がのる頃には、樟蔭短大で初めての新生歓迎の企画が行われているはず。新1年生との新たな1年の始まりです。

(小林和美理事)

## 奈良教育大学生協

いよいよ4月7日の入学式の日、待ちに待った新食堂がオープンします。これまでも利用結集の高い食堂部でしたが、この改装によりカフェテリア食堂としての機能を大幅にアップしたので、一層の利用が期待されます。また昨年来、購買部・書籍部ともリニューアルをおえ、98年度は全店舗がリニューアルして新生を迎えることになり、役職員一同しっかりと喜んでもらおうと頑張っています。

(疋田専務理事)

## ならコープ

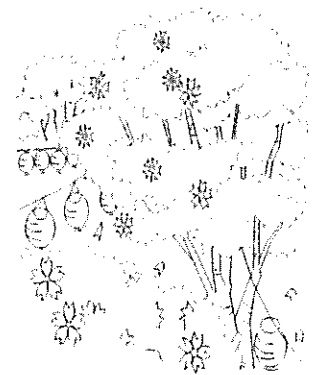
組合員・職員がともにすすめた

福祉募金推進月間

「だれもが安心して老後を迎えるために」「組合員みんなの暮らしに貢献できる」「特別養護老人ホームを私たちの手で」と組合員と職員がいっしょに学び、語り合っただけでなく、福祉募金推進月間は、かつてない大きな成果と確信になっています。募金は約1ヶ月で8千万円(予約も含む)ほどになり、募金全体では1億7千万円になりました。この取組みの中で「最初は不安だったり、充分理解できなかったが」、「組合員とともに学習する中で」「話し合う中で」「組合員の思い募金の協力が予想以上に多く」「本当に喜んでくれる組合員にふれ」励まされ、次第に意識も変化していった。そして、「生協の職員として誇りをもつことができた」と職員は大きな確信になっています。共同購入のトラックに添乗していっしょに呼びかけた組合員の「職員は週を重ねるごとに、話の内容が高まって感心した」と一生懸命呼びかける職員に信頼が高まっています。

4月からは店舗利用組合員への呼びかけもスタートします。多くの組合員が、つくる時も建設後の運営にも関わる「参加型」の福祉の取組はいよいよ本格的なスタートとなります。

(新田課長)



# 県連日誌

# お知らせ

- 1/29 第4回理事会
- 27~30 すぐに役立つ福祉講座
- 2/4~5 近畿地区府県連協議会
- 10 消費者団体交流プラザ
- 13 '98 アースデー実行委員会
- 14 第8回奈良県生協大会
- 17 「省エネルギー月間」研修会
- 22 第五福竜丸エンジンを東京夢の島へ
- 25 第5回事務局会議
- 3/1 大和のごっつお展
- 3/26 第5回理事会

**アースデープリング in なら'98**  
 と き 4月19日(日)  
 ところ 奈良県第一浄化センター自由広場  
 内 容 大和川クリーン作戦  
 ネイチャーゲーム、ステージイベント等

**消費者月間フェスティバル**  
 と き 5月22日(金)~24日(日)  
 ところ 奈良ファミリー、奈良県文化会館

**第10回通常総会**  
 と き 5月30日(土)  
 ところ 共済会館やまと

## 生協連ニュースタイル文字変更と題字について

「共生」は、人間と自然、現在の私達と未来の子供達、農山村と都市、生産者と消費者、健康者と障害者、経済先進国と経済難民の国々、大企業と零細・中小企業、経済活動と地域の生活、世代間の共生、異文化との共生等、人を取り巻くあらゆる関係において、それぞれの存在を認め、支え合う関係を持ちたいという思いを込めました。

21世紀が征服の論理、競争の論理で行き着くところまで行くのか、共存の論理、共生の論理で「持続可能な社会をつくる」のか、岐路に立っているように思われます。

題字は 奈良教育大学教育学部美術教育(書道)宮崎彰夫教授にご協力いただきました。(雅号 莢光)

### 編集後記

▽タイトル文字「共生」が多くの人の支えで誕生しました。人と言う字はお互いの支えがないと存在しないように、二十一世紀の社会が支えあって存在しますように。

(俊)

▽早春の一日、鳥取に行ってきました。熟年夫婦の二人旅とてカニの身つつきに夢中になり、寡黙な宴となりました。それはそうと、夢の島でのもの言わぬエンジンと福竜丸船体との再会、うまかったのかしら。

(信)

▽春は移動の多い季節。私も関東から引越して丸十三年がたちました。未だに関西弁は子供に負けますが、奈良の春、レンゲ畑、大好きです。それにしても十年で車の量が増えたこと!

(鈴)



奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪 1-2-2 ならコープ気付

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043